

勇和水産

離島ならではの海中環境と最新冷凍設備で
「喜多嬉かき」のブランディングに挑戦



1/親子3代で牡蠣養殖や漁業に励む藤井さん一家。和平さんは水産会社勤務などを経て、20代後半になってから祖父や父とともに働くようになったという 2/養殖した牡蠣はクレーンで吊り上げて収穫する 3/海から引き揚げられた牡蠣を念入りに洗浄、検品する 4/身がシッカリと詰まった「喜多嬉かき」。旨み成分が豊富で、食べた後の余韻も存分に味わえる。サイズはMサイズ(60~79g?)Lサイズ(80~100g?),LLサイズ(101g?以上)の3種で、一番人気はLサイズ

だが、和平さんには「牡蠣がもつとも高値で売られるのは12~2月だが、もつともおいしい時期は2~4月。このギャップを埋め、より収益を安定させることはできないか」という悩みの種が。そして、悩んだ末に和平さんが思いついたのは最新の冷凍技術の導入だった。「もつともおいしい時期の牡蠣を最高のコンディションで冷凍することができれば、一年を通して安

親子3代で底引き網漁や定置網漁、魚運搬船の運航、牡蠣養殖などを手がけてきた「勇和水産」が、「喜多嬉かき」と銘打ったブランド牡蠣を販売し、注目を集めている。同社が牡蠣養殖をはじめたのは、今から17年ほど前のこと。「本土側に比べて圧倒的に海中の細菌が少ないうえにブランドトンが豊富だったこともあり、旨みが豊富な生食用牡蠣を養殖することに成功しました」と勇和水産社長の藤井和平さんは話す。以来、同社は厳格な水質検査や規格検査、出荷前滅菌処理を行うことで、安全・安心な牡蠣養殖を実現。いまや岡山県内で唯一生食用の殻付き牡蠣を生産・販売できる事業者となっている。

定した価格で出荷できるのではないかと考えたのだ。さっそく、和平さんは農林水産省の6次産業化プランナーに相談、2年前に国のものづくり補助金を活用して最新の冷凍施設を立ち上げたという。当初は冷凍の加減に試行錯誤したが、その狙いは見事的中、「旨みがすごい」とはやくも東京のレストランなどにも販路が広がりにつつあるという。「冷凍というとまだ鮮度が劣るといふ印象を持たれがちですが、当社が使用している冷凍技術は旨み成分をしっかり閉じ込めるので、解凍後に生食したほうがむしろおいしくなるくらいです。これからは日本のみならず、アジア諸国にも販路を拡大していきたいですね」と和平さんは意気込む。北木島の喜多嬉かきが世界へ。今まさにこの島であらたな産業の芽が育とうとしている。

data

●勇和水産
笠岡市北木島町6631-23 ☎
0865-68-3751/2018年から「喜多嬉かき」としてブランド牡蠣を販売。名前には「喜びが多く嬉しくなる牡蠣」「祝いの席で使われる牡蠣」「出世牡蠣」といった思いが込められているという。
kitaki-kaki.com

K's LABO

ストーンミュージアムが
北木島の観光と石材産業の未来を拓く



1/北木石製の恐竜に頭を食べられる感じで撮影できるインスタ映えスポットに立つ鳴本さん。「私が小学生の頃は石を大量に積んだトラックが頻りに往きか、島も活気に満ちていました。今ではそんなことはありませんが、『石屋の社長になれば儲かるんだ』と思えたものです」と話す 2/石材産業関連の資料が展示されている有料のミュージアムスペース。「これからもあらたな資料が見つかったら随時増やしていきたい」と鳴本さんは話している 3/人気の「北木石トンボ玉キーホルダー」 4/ミュージアムに併設されたカフェ



北木島には北木石の歴史・文化を知るうえで、もうひとつ重要なスポットがある。豊浦地区にあるストーンミュージアム「K's LABO(ケーズラボ)」がそれだ。この施設を運営するのは「鳴本石材」。同社はもともと北木島で石材加工場を営んでいたが、現在は笠岡市の本土側に拠点を移し、北木石やそのほかの国産材の加工を手がけているという。「北木島」における石材産業の歴史と文化を継承し、また石という素材の価値や魅力を観光客の皆さんにも知ってもらいたいという思いで、2017年にこの施設を立ち上げました」と鳴本石材社長の鳴本太郎さんは話す。しかし、いざ石材産業の資料を収集しはじめると、思いのほか困難をきわめたという。「関連事業者や組合などに手当たりしだい聞いてみたのですが、写真などがほとんど残っていませんでした。そこで、かつての職人さんやその家族に声をかけ、少しずつ資料を集めていきました」と鳴本さん。



data

●K's LABO
笠岡市北木島町10364-25 ☎
0865-69-8814 入場料600円/カフェも併設しており、テラスではバーベキューも可能。サイクリングやキャンプ、マリンアクティビティ用具のレンタルも行っている。
kslabo.info

支えてきた先人たちの功績を知ることができる。また、ミュージアムに併設したショップではケーズラボのオリジナルグッズを販売中で、北木石をガラスで包んだ「北木石トンボ玉キーホルダー」が人気を集めているとのこと。さらに石材の需要喚起を狙って、ミュージアム周辺には石材を使ったアート作品が数多く展示されているので、来館の際にはそれらのアートもじっくりと鑑賞しておきたいところだ。「ふるさとである北木島に恩返しをしたい」という鳴本さんの思いが詰まったケーズラボ。これから石材産業や観光に関連するあらたなビジネスが生まれるかもしれない。